

# ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年7月7日 No.13]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033  
URL [http://www.geocities.jp/youth\\_against\\_nukes/index\\_jp.html](http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html) Eメール [youth\\_against\\_nukes@yahoo.co.jp](mailto:youth_against_nukes@yahoo.co.jp)

## 「継承」テーマにつどい成功を 第6回準備委員会

広島でも現地実行委員会が20人以上の参加で立ち上がりました。

**準備委員会** 7月5日(水)平和と労働センターで第6回準備委員会が行われ、東京・神奈川・千葉からの代表を含む15人が参加しました。

はじめに6月25日に行われた「核兵器なくそう・世界青年のつどい in バンクーバー」の報告がありました。峠三吉の原爆詩「にんげんをかえせ」をアメイジンググレイスのメロディにのせて歌い、大きな感動を巻き起こした形岡七恵さんは、「歌を聴いた愛知の被爆者(広島被爆)が、涙を流して『死んだ仲間に聴かせたい』と言ってくれたことで自分の役割を改めて実感した」と語りました。

つづいて、各地の取り組み状況を交流。神奈川では、「原子力空母くるな」の一点で実行委員会を作り、「7・9首都圏大集会 in 横須賀」を成功させようと8日まで全県50ヶ所で宣伝を計画している。千葉では、ピースバスチバ実行委員会が駅頭で折鶴を折ってもらいながら「すみやか」署名を集める宣伝をやり、6月17日の木更津駅前の宣伝は高校生が協力してくれて200羽以上の折鶴が集まった。東京からは、バンクーバーに行って人生観が変わった、元気になったという人を先頭に、高校生100、学生100、地域100の300人で参加したいという目標が出されました。

現在の準備状況、企画の概要は以下の通りです。  
つどい in ヒロシマ(8月4日 17:00~19:30 県立体育館小アリーナ)

「継承」をテーマに、被爆の実相を学ぶ 草の根の運動の力になる学習 世界と日本の運動の交流 広島市長のスピーチを構成要素とし企画立案中。 の学習については、情勢学習にとどまら

ず、被爆者の体験に触れた青年が職場、地域、学園での草の根の運動の推進に役立つ内容にする。

の運動の交流はできるだけ双方向型、参加型を追求する。

青年のひろば Part1(8月5日 9:00~16:00 県立体育館小アリーナ、剣道場)

700人の青年が被爆者訪問(昨年の1.5倍)を準備する。会場に残る300人の青年はテーマ別ディスカッション。最後は小アリーナで全体シェアリング。

今年のはじめての取り組みとなるテーマ別ディスカッションは、午前中に「継承」をテーマにしたパネルディスカッション(小アリーナ) 午後は剣道場も利用して小グループに分かれた討論と、福島町など被爆者の多い地域での全戸訪問署名行動(一部希望参加制)ディスカッションのグループ独自にもシェアリングの時間を設ける。

青年のひろば Part2(8月5日 17:00~20:00 剣道場または河原)

県立体育館剣道場、もしくは周辺の河原を会場に青年の交流の場所をとして開放する。発言の場や表現の場、平和の文化を意識した発表の場となるようにしたい。

つどい in ナガサキ(8月8日 17:30~19:30 市民会館体育館文化ホール)

長崎現地では、週1回準備委員会が開かれ太鼓、被爆証言、感想交流など、具体的なプログラムの議論が進んでいる。

市民会館体育館文化ホールでのつどいの後、キャンドルウォークを予定。